平成２２年度　三島村立　三島小中学校

学校だより　磯松　６月号

生活二題：　明るく元気なあいさつをしよう!!　　時間を守り，機敏な行動をしよう!!

子どもたちとの関わり方

校長　新　門　健　一

ある本を読んでいて次のようなものがありました。

子どもの不幸について

１　過保護に育てられた不幸

ちょっと難しい事にぶつかると，へこたれる。逃げてしまう。誰かのせい他のせいにして，自分は関わろうとしない傾向の子に。大人でもいます。

２　放任された子の不幸

自分の気に入らないことには無性に腹を立てる。短期で怒りっぽい，お天気屋で自分勝手な子に。他の気持ちが分からない，分かろうとしない，そんな傾向の大人も。

３　過干渉に育てられた不幸

自主的にやろうとしないし，やってはいけないと思っているらしい子。万事に消極的，指示待ちというか，指示されないからやらなかったのだと正当化する子。

４　暴力，暴言，乱雑などの境遇にいた子の不幸

過敏な神経，びくびくして，自分のペースでものが考えられない子。何事にも自分のペースで作業が出来ない子。他の子の目を気にしすぎる子。

５　教えられない不幸，しつけられない不幸

子どもの頃，ごく当たり前の社会常識といわれる礼儀やマナーが教えられていない，しつけられていない。

これらの点について，親・大人としてあるいは教師として子どもたちとの関わり方を考え，自分の行動をふり返ってみるのもいいのではないでしょうか。子育ては難しいものです。「手を離せ，目を離すな」の意識を持って取り組んでいきたいと思っています。

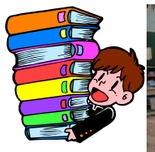
あじさい読書週間

１４日（月）～１８日（金）は，「あじさい読書週間」でした。本校の特色ある教育活動のひとつであるガジュマルの木のの下での緑陰読書や，委員会の子どもによる読み聞かせ活動などにより，普段よりも一段と読書に親しむことができたようです。

県教育委員会では「いつも身近に１冊の本を」のキャッチフレーズのもと，かごしまっ子 20 分読書活動を推進していますが，今後も子どもたちの読書に対する興味・関心を引き出すような働きかけを工夫していきたいと思っております。

かごしまっ子２０分読書運動

◎読んでもらおう　◎読んであげよう
◎一人で読もう，みんなで読もう
◎家族で読もう　　◎大人が読もう



ALTフィオ先生とのお別れ

４年間にわたり，本校を含む ALT を努めて下さっていたフィオ先生が母国のアメリカに帰られるということで，１１日（金）にお別れをしました。前日の１０日（木）は，三島小中学校で最後の授業でした。レクリエーションなどを交えながら楽しく学習し，英語への興味・関心を一層高めたことと思います。港では，ジャンベ演奏で盛大に見送りをすることができました。フィオ先生も三島のことを忘れず本国でがんばられると思いますので，子どもたちも負けずにがんばってほしいです。（ALT：外国語指導助手）

授業参観，高齢者給食試食会・スポーツ大会

１６日（水）に授業参観と高齢者給食試食会とスポーツ大会を実施しました。給食試食会は，今年からの実施です。普段子供たちが学校で食べている給食を高齢者の方々にも試食していただきました。昔の給食と比べてずいぶん変わっていておいしい，というような感想もありました。

授業参観では，保護者と高齢者の方々に参観していただき，子どもたちもふだん以上に張り切って学習していました。

高齢者スポーツ大会は，子ども達と高齢者の方がペアを組み，楽しくプレーすることができました。ホールインワンすれすれのスーパーショットが飛び出し歓声がわき起こるなど，好天にも恵まれ，大変盛り上がりました。高齢者の方々と子ども達にとって，充実したふれ合い活動となりました。

食に関する授業

７日(月)～８日(火)に，田中栄養教諭による食に関する授業がありました。田中栄養教諭は，缶ジュースに入っている砂糖の量を予想させるなど，正しい食事のあり方について子どもたち自身に考えさせながら実生活と関連付けて授業をしていました。

食に関する指導は，今後ますます重視されます。子ども会活動で採った筍を給食に活用するなど，地産地消の推進も含めて，本校ならではの食育をさらに充実させる必要があります。

お知らせ

県は，ハンセン病問題に対する正しい知識の普及啓発を図るため，２０日（日）～２６日（土）を「ハンセン病を正しく理解する週間」として設定しています。御承知の通り，これまでハンセン病は怖い病気であるという誤った考えから，様々な偏見・差別や人権侵害を引き起こしてきました。学校では，道徳や学級活動などの時間の中でこの問題に触れながら，偏見や差別をなくすことについて指導しています。

これを機会に，ハンセン病問題により今もなお根強い偏見や差別に苦しむ方々がいらっしゃることなど正しく理解し，偏見・差別の解消に努める必要があると考えます。